公開シンポジウム（民族藝術学会 特別研究例会）

「アウトサイダー・アート」再考
その流通とマーケット

2014年4月20日（日）14：00～17：00　甲南大学2号館211教室

障がい者による創作行為や、独学自修者による創作物（「セルフトート・アート」）などの周縁的な美術作品は、しばしば「アウトサイダー・アート」と呼ばれます。この「アウトサイド」のアートに対する評価は、論じる側の戦略的、政策的な立場の違いから、「正規の」美術と様々に距離感を測りながら行われてきました。障がい者による創作物は、今日においても、単純に「アウトサイド」であり得るのでしょうか？　アウトサイダー・アートは「正規の」美術とどう接続しているのでしょうか？　このシンポジウムでは、「流通」や「マーケット」という観点から、アウトサイダー・アートを再考します。（このシンポジウムは民族藝術学会創立30周年記念事業の一環をなすものです）

リール・メトロポール近現代アール・ブリュット美術館展示風景

プログラム

開会挨拶　神林恒道（民族藝術学会会長）

趣旨説明　「アウトサイダー・アートの近況」　服部　正

基調報告1　「山下清のマーケティング戦略」　藤原貞朗

基調報告2　「OUTSIDE IN：周縁と主流をつなぐマーケット」　小出由紀子

ディスカッション「アウトサイダー・アートの流通とマーケット」
服部正、藤原貞朗、小出由紀子、岡田裕成
特別ゲスト：今中博之

閉会の辞　川田都樹子（甲南大学教授）

登壇者プロフィール（五十音順）

今中博之（社会福祉法人素王会理事長、アトリエインカーブ・クリエイティブディレクター）著書に『観点変更―なぜ、アトリエインカーブは生まれたか』（2009年、創元社）など。

岡田裕成（大阪大学准教授・美術史）著書に『南米キリスト教美術とコロニアリズム』（2007年、名古屋大学出版会、齋藤晃との共著）など。

小出由紀子（インディペンデント・キュレーター、小出由紀子事務所代表）編著に『ヘンリー・ダーガー　非現実を生きる』（2013年、平凡社）など。

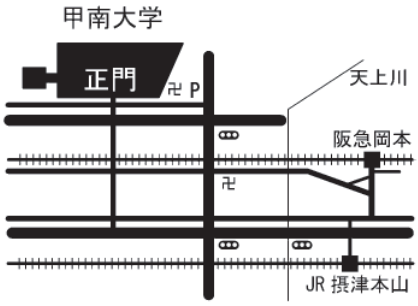
服部正（甲南大学准教授・美術史）著書に『アウトサイダー・アート―現代美術が忘れた「芸術」』（2003年、光文社新書）など。

藤原貞朗（茨城大学教授・美術史）著書に『オリエンタリストの憂鬱―植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』（2008年、めこん）、『山下清と昭和の美術―「裸の大将」の神話を超えて』（2014年、名古屋大学出版会、服部正との共著）など。

会　場　甲南大学2号館211教室（教室は変更の可能性があります。会場の案内表示をご確認ください）

申し込み不要・参加費無料

JR神戸線摂津本山駅から徒歩12分、阪急神戸線岡本駅から徒歩10分（神戸市東灘区岡本8-9-1）。駐車場はございませんので、公共の交通機関をご利用ください。



主　催　民族藝術学会、甲南アーツ＆セラピー研究会

助　成　JSPS科学研究費助成事業　「芸術学と芸術療法の共有基盤形成に向けた学際的研究」（基盤研究(B) 25284046　代表：川田都樹子）

問い合わせ先　outsiderart.mg@gmail.com

「再発見！　民族芸術学。」

民族芸術学の新たな可能性を考える

民族藝術学会創立 30 周年

1984-2014

民族藝術学会の概要と活動

創　立　1984 年

会員数　正会員 727 名　学生会員 67 名（2014 年 3 月現在）

役　員

〔会　　長〕　神林恒道　　〔名誉会長〕　木村重信

〔評 議 員〕　安藤忠雄　伊藤郁太郎　小川後楽　川野洋　菊竹淳一　杉村棟　千宗守　永井信一　端信行　藤井知昭　細井雄介　山口修　山田幸平　吉田宏志　吉田泰巳

〔理　　事〕　秋山光文　天野文雄　井関和代　板谷徹　伊東一郎　伊東信宏　伊從勉　上野智子　後小路雅弘　大久保恭子　大高保二郎　大橋力　岡田裕成　小澤弘　河合徳枝　川口幸也　神林恒道　木村重信　岸上伸啓　圀府寺司　河野元昭　近藤秀實　卜田隆嗣　杉田繁治　谷一尚　出川哲朗　永原恵三　仲間裕子　西垣安比古　濱田琢司　原田平作　福本繁樹　藤井龍彦　藤田治彦　吉田憲司

主な活動

〔大　　会〕　年 1 回開催

〔研究例会〕　大阪を中心に、名古屋、福岡などで年 4 回開催

〔東京研究例会〕　年 3 回開催

〔学会誌『民族藝術』〕　年 1 回発行（右欄参照）

〔学 会 賞〕　毎年「木村重信民族藝術学会賞」を授与

本年度の大会

本年度は、創立 30 周年の記念大会を 9 月 21 日（日）～22 日（月）の日程で、国立民族学博物館において開催します（当番校：国立民族学博物館・大阪大学）。「再発見！ 民族芸術学。」をテーマとして、２つの公開シンポジウムを開催します。一般発表の募集は 6 月頃を予定。

シンポジウム 1（9 月 21 日）：「周縁」から「接触領域」へ　―民族芸術学の新たな可能性を探る

シンポジウム 2（9 月 22 日）：「イメージの力」再考

＊タイトルなどは変更されることがあります。

学会誌『民族藝術』

ジャンルや地域の枠を超え、芸術に関する幅広い研究を取り上げる**査読付き学会誌**です。特定のテーマを掘り下げた**カラーグラビア**と「**特集**」、会員の投稿論文を掲載する「**民族藝術学の諸相**」、最新の展覧会やパフォーマンスの批評を集めた「**民族藝術学の現場**」などで構成されます。

狭い意味での「民族芸術」だけでなく、主流的な芸術領域について斬新な視点を提示する論考、あるいは、研究領域の狭間に位置するようなテーマに挑戦する研究も、積極的に取り上げます。

最新号（vol.30）の内容

カラーグラビア・特集「芸能の力」　震災後の東北地方の現状にも注目。論文８編。

民族藝術学の諸相　「祇園町の都をどり」、「雲南省モンの現代民族衣装」、「セルビアにおけるポピュラー音楽史」、「ロシアにおけるピカソ・コレクション」、「インドネシアの現代美術」など取り上げた論文 14 編。

民族藝術学の諸相　古典芸能、染織、陶芸から現代美術に至る多様なジャンルの批評 16 編

バックナンバーの特集テーマ　それぞれの分野の専門家が編集する「特集」では、多様なテーマを扱ってきました。主なものとしては、「インドネシアの藝術と文化」（vol.3）／「アフリカの藝術と生活」（vol.5）／「南アメリカの先史藝術」（vol.9）／「バリ」（vol.17）／「民具と民藝」（vol.18）／「文化遺産の保存と修復」（vol.19）／「民族とモード」（vol.20）／「韓国・日本の茶文化」（vol.21）／「江戸の民族藝術」（vol.22）／「沖縄の民族藝術」（vol.23）／「民族藝術と巡礼」（vol.24）／「京都の染め」（vol.26）／「ガラスの東西」（vol.28）　などがあります。

入会申込書

FAX または郵便でお送りください。事務所より会費の振り込み用紙を送付します。

年会費は、正会員 10,000 円、学生会員 3,000 円です。学生会員の詳細は HP をご覧ください。

宛先：
民族藝術学会本部事務所
FAX 06-6850-5121
〒560-8532
豊中市待兼山町 1-5
大阪大学文学研究科
芸術学・芸術史講座内

フリガナ			
氏名			
フリガナ			
自宅住所	（〒　　－　　）	電話 （　　）　　－	
所属機関住所	名称： 所在地：（〒　　－　　）	電話 （　　）　　－	
メールアドレス			
専　門	いずれか一つを選んでください。 美術　音楽　建築　デザイン　演劇　工芸　染織　陶磁　ガラス　服装　芸能　舞踊　文学　歴史 考古　宗教　映像　音響　民俗　書　華道　茶道　生活文化　芸術学　民族学　その他（　　）		
会員種別	正会員　　学生会員　どちらかを選んでください。	入会年度　＿＿＿＿年度	
連絡先	自宅住所　所属機関　どちらかを選んでください。		

インターネットからもお申し込みいただけます。

民族藝術学会ホームページ　http://ethno-arts.sakura.ne.jp